天文ニュース 2021　No.1　　アストロアーツより引用　文責　山口勉

４月の星空

目立った天文現象が月と火星の大接近（17 日）しかない今月は、のんびりと大きい星座の星々をたどってみよう。全天で最大のうみへび座が南から南東に長く伸びて横たわり、2 番目に大きいおとめ座が南東の空に姿を見せ、3 番目のおおぐま座が北天高く上っている。春霞の中、目を凝らして丁寧に星をつなぐと、大きさをいっそう実感できそうだ。

この時季、宵空では南西に冬の大三角が、南東に春の大三角が見える。どちらもほぼ正三角形だが、一辺の長さは春の大三角のほうが長い、つまり春のほうがより「大」三角ということになる。意識して比べてみよう。りょうけん座やこじし座、からす座など、小さい星座にももちろん目を向けてほしい。
夜空には美しい二重星や星団、銀河なども潜んでいる。モバイルアプリ「星空ナビ」や月刊誌「星ナビ」を参考に、肉眼・双眼鏡・天体望遠鏡（・カメラ・想像）…様々な方法で新年度も宇宙を楽しもう。

４月 17 日　月と火星が大接近

４月 17 日の夕方から深夜、西から西北西の空で月齢 5 のやや細い月と火星が大接近して見える。

月と火星の間隔は夜が更けるにつれて小さくなっていき、22 時 30 分ごろに 1 度未満まで近づく。双眼鏡で観察すると間隔の変化がわかりやすいだろう。火星は 1.5 等級まで暗くなり、やや目立たなくなってきたが、今回のようなタイミングでは注目してみたい。次回の接近は５月 16 日。

４月 22 日　４月こと座流星群が極大

４月 22 日、４月こと座流星群の活動が極大となる。極大時刻は深夜 22 時ごろと予測されているので、22 日深夜から 23 日明け方にかけてが見ごろとなる。

23 日の２時ごろまで上弦過ぎの月が夜空を照らすため条件はあまり良くないが、もととも流星数が多い群ではないので、目にできればラッキーくらいの気楽さで、月から離れた方向を中心に空を見渡しながら流れ星を待ってみよう。少ないながらも明るい流星の割合が高いので、目にできれば印象に残りそうだ。母天体はサッチャー彗星。